

事業評価調書

◎基本情報

年度		令和5年度	会計コード	10	一般会計	事業コード	36836	
事業名		仮称)札幌自然史博物館整備推進費						
評価担当課		所 属	市)文化部 文化振興課			電話番号	011-374-5002	
施策名		文化・文化財を適切に保存し様々な形で生かすとともに、札幌市へ						
アクションプラン		● 対象 ○ 対象外						
事業の性質		○ 経常経費 ● 臨時的経費			○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理費			
		● 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助・助成 ○ その他						
事業内容	事業の背景(現在の状況、社会的課題)		1986年(昭和61年)「自然系総合博物館」の検討を開始。2015年(平成27年)に(仮称)札幌博物館基本計画を策定し、「北・その人と自然」を基本テーマとする自然史博物館の整備に向けた調査・検討を進めている。2001年(平成13年)からは博物館のソフト事業を先行するため、博物館活動センターを開設し、博物館の基礎となる調査・研究、資料の収集・保存を行いながら、さまざまな博物館活動に取り組んでいる。課題として、新型コロナによる人流への影響、物価高騰など博物館の安定した運営のために、民間活力や先進事例を活かした博物館の安定的な集客策の検討が必要。また、現在の博物館事業の認知度が低いため、市民に活動を周知し、博物館ファンを獲得していくことが課題である。					
	事業内容(何を実施し)		札幌の自然史への興味・関心の促し、博物館整備を推進するため、博物館の基本的な活動(資料の収集保存、調査研究、普及交流)を実施するとともに、整備に関する調査検討を実施。 ①資料の収集・保存:収蔵資料の分類・整理、市民等からの寄附 ②調査研究:(小金湯産クジラ化石、希少植物など ③普及交流:企画展、体験学習会、出張展示など ④博物館計画の推進:上記①～③の事業を通じて博物館開館に向けて市民の機運醸成を行い、具体的な整備に向けて必要な事例調査や整備手法について検討する。					
	どのような状態にしたい(状態を維持したい)		さっぽろへの理解・認識を深め、郷土への愛着を育み、札幌の魅力をより高めるために、市民とのパートナーシップによる博物館活動を継続し、博物館整備を推進することで札幌の自然とその成り立ちを学ぶ機会を創出する。					
	他都市の状況		大阪市立自然史博物館や北九州市立自然史・歴史博物館館他、多くの政令市においてそれぞれ地域の特色ある博物館を設立している。					
	市民参加の実施		■ 企画 □ 実施 □ 評価 □ 対象外					
	令和4年度決算額		6,146 千円	うち特定財源	0 千円		正規職員業務量	1.5 人工
令和5年度予算額		19,000 千円	うち特定財源	0 千円		正規職員業務量	3 人工	
令和5年度決算額		14,911 千円	うち特定財源	0 千円		正規職員業務量	3 人工	
令和6年度予算額		19,000 千円	うち特定財源	0 千円		正規職員業務量	3.79 人工	
指標	アウトプット活動指標1		博物館事業年間参加者数を増やす				という活動、業務を行うことで	
			令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
			12,734人	13,000人	12,984人	13,500人	14,000人	14,500人
	↓							
	アウトカム成果指標1		博物館活動センター認知度が向上する				という状態にしたい、成果を挙げたい	
			令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
			3.00%	3.50%	15.60%	4.00%	4.50%	5.00%
	指標1の評価、未達理由、今後の考え方		目標を上回る結果となったが、2022年度までと2023年度からで調査方法が変わった影響も考えられるため、2024年度以降も事業目標を継続し、センターでの活動に加えてアウトリーチ活動を強化していくことで更なる認知度向上につなげる。					
	アウトプット活動指標2						という活動、業務を行うことで	
			令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
	↓							
アウトカム成果指標2						という状態にしたい、成果を挙げたい		
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定	
指標2の評価、未達理由、今後の考え方								
今年度の見直し内容		なし						
来年度以降の方向性		博物館活動センターを中心に博物館活動を継続することで、札幌の自然史に対する市民・観光客の興味・関心を高めるとともに、他機関との連携を強化し、認知度向上に向けて様々な形で市民への周知や活動参加を促す。						